

．基本方針の策定

5 - 1 . 上位・関連計画によるバリアフリーの方向性

(1) 千歳市新長期総合計画 (平成 13 年 4 月)

市では、本格的な高齢化社会を迎える今日、「生き生きと暮らせる福祉都市」として、ユニバーサルデザインの思想に基づき、誰もが気軽に利用できるようなバリアフリーへの配慮等を取組課題としてあげている。又、地域福祉の推進として、地域福祉環境に関連する部門間の連携を充実するとともに、ハード・ソフト両面において、バリアフリーの視点に立った、すべての人にやさしいまちづくり（道路や交通機関の改善、整備）に取り組むこととする。

主要テーマ

心がかよい幸せ感じる都市づくり

個別テーマ

生き生きと暮らせる福祉都市

地域福祉の推進

[基本方向]
人にやさしいまちづくりの推進
[主要施策]
生活福祉環境の整備
・高齢者や障害者が安心して生活できるよう住宅などの環境整備に努めるとともに、建築物・道路・交通機関などの改善整備を進める

主要テーマ

魅力と活力あふれる都市づくり

個別テーマ

魅力ある高次機能都市

道路体系の整備

[基本方向]
生活道路の整備
[主要施策]
快適な生活道路環境の整備
・市民生活に密着し、高齢者や障害者、児童生徒などの交通弱者も安心して歩ける安全性・快適性・利便性に優れた生活道路の整備を進めるとともに、地域の特性を生かした、ゆとりとうるおいに満ちたコミュニティ道路としての環境づくりに努める。

(2) 千歳市高齢者保健福祉計画・千歳市介護保険事業計画

(千歳市高齢者いきいきプラン 2000)(平成 12 年 3 月)

本計画は、千歳市の都市づくりの最も上位の計画となる総合計画との整合性に留意しながら推進し、福祉分野の個別計画である千歳市障害者福祉計画及び子育て支援計画の各施策とともに、誰もがいきいきと安心して暮らせるまちづくりを進めるものである。

本計画における基本理念と施策の体系は以下のとおりである。

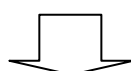
【基本理念】

千歳市に住む高齢者一人ひとりが、人としての尊厳をもって、家庭や地域の中で自立した生活が送れるよう支援するとともに、活力ある高齢期の実現を目指す。



【基本的な政策目標】

- 1 要介護高齢者の自立支援
- 2 健康でいきいきと生活できる環境づくり
- 3 地域支援体制の構築



【重点課題（重点取り組み事項）】

- 1 介護サービスの充実
- 2 痴呆性高齢者施策の推進
- 3 介護予防の推進
- 4 高齢者の社会参加の促進
- 5 地域ケア体制の構築

特に、「高齢者の社会参加の促進」に向けて、人にやさしいまちづくりを推進し、高齢者や障害者が安心して歩けるよう、歩道の段差解消など歩行空間の移動円滑化に努めるものである。

(3) 千歳市都市計画マスタープラン (平成 11 年 3 月)

千歳市都市計画マスタープランは、「住民参加」のもとに、地域毎の将来像、道路・公園などの公共施設の計画、地域における都市づくりの課題、それに対応した整備などの方針を謳ったものである。

都市計画マスタープランは、全体構想、地域別構想、都市像実現の方途などを骨格として構成されている。

その中で、都市づくりの目標は以下のとおりである。移動の円滑化に係わる項目としては、3つの目標の中で、「安全性と快適性の確保された“安心して生活できるまち” - 交通ネットワークの整備」が関連する項目である。

特に、この目標を受け、主要課題である「交通ネットワークの整備」から、高齢者や障害者などが安心して通行することができるよう安全な道路整備に努めるものである。

基本理念	3つの目標	目標達成のための主要課題
せせらぎに創造し世界にはばたくつどいの里	水と緑に包まれた “うるおいのあるまち”	自然環境の保全 自然環境の活用 都市景観づくりへの対応 歴史環境の活用と芸術文化の振興 農業との調和への対応
	安全性と快適性の確保された “安心して生活できるまち”	騒音地域への対応 雪への対応 基地との共存への対応 交通ネットワークの整備
	産業と交流に支えられた “いきいきしたまち”	空港周辺地域及び産業振興への対応 国際化と交流人口への対応 都心部の再生への対応 人口増加への対応

(4) 千歳市「人にやさしい街づくり指針」(平成6年3月)

千歳市「人にやさしい街づくり指針」は、障害者にとって暮らしやすい街は全市民にとって暮らしやすいもので、市民一体となってすみよい街づくりを考えていくために策定されたものである。施設整備やまちづくりを進めていくうえで、福祉の観点から一つの指針 - マニュアルとなるものである。

千歳市として、障害者の特性を踏まえ、福祉環境整備に留意する事項を以下の視点で捉えている。

留意事項	安全性	・転倒、転落の防止や万が一の場合でも怪我をしにくいづくりなど、安全性の確保は障害者には身近な問題である。
	利便性	・段差の解消、スムーズな通行を確保するための通路、ドア、スロープなど、障害者の利便性を考えた設備を充実させる必要がある。
	快適性	・健康な人には快適といえる環境であっても、障害者の方々には老齢、病気等の障害により不快に感じることもあると思われる。 ・快適な環境づくりのため光、温度、空気、広さなどに配慮することが必要である。
	操作性	・身体機能が低下しても必要な操作ができるように、設備の高さや場所に配慮する必要がある。
	介護性	・家族や介護の方が介護しやすいように、部屋の大きさ等について配慮する必要がある
	緊急対応	・障害者は急に具合が悪くなることも考えられる。そのような事態になった場合、救助のための通報手段を確保することも重要である。
	可変性	・一般住宅においては、加齢や障害の進行に伴う生活様式の変化などに対応できるよう可変性のある設備が重要となっている。
	プライバシー	・障害者が人間性らしい生活を送ることができるようにするために必要な概念である。

(5) J R 千歳駅周辺交通環境改善計画 (平成 13 年 3 月)

～ 千歳市公共交通システム整備基本計画 ～

千歳駅周辺は、中心市街地の「駅前交流拠点」と位置付けられ、バスや鉄道の交通結節機能の強化を図ることが求められている。しかし、千歳市の公共交通の脆弱さが指摘されるなか、千歳駅についても交通環境が未整備な現状であり、乗り継ぎの利便性、道路横断の安全性、滞留空間としての快適性などの向上が課題となっている。

このようなことから、千歳駅周辺の問題点・課題等を把握し、市民や駅利用者の利便性の向上等より良い交通環境を構築するため、交通結節点機能の強化、拠点機能と良好な環境空間の形成、適切な交通動線計画の策定などを行い、賑わいやゆとりの空間としての千歳駅周辺の交通結節点整備を目的とする、「J R 千歳駅周辺交通環境改善計画」を策定した。

計画策定のため、「千歳市公共交通システム整備基本計画策定協議会」と併せて、「千歳市公共交通システム市民会議」を立ち上げ、市民からの提案事項を計画に反映させている。

事業の概要としては以下のとおりである。

事業項目	事業概要
歩行者専用道路、通路整備	J R 千歳駅と各バス乗降場を結び、道道を超えて中心市街地方面へ直結するペDESTリアンデッキを2階で整備する。
バス道路整備	東西の市街地から駅隣接のターミナルにバス動線を集約し、市道栄通から東西に還流する。他
市道栄通拡幅	バス交通の流入に対応して拡幅を行い、車線を増設する。
西口広場改修	バス専用動線を分離し、タクシー、一般車との混在を解消する。 既存のタクシー、一般車のアクセス機能を維持する。 オープンスペース、植栽、モニュメント等の再配置により、快適な歩行者空間を持つシンボル性の高い広場とする。
東口広場改修	東口広場の一部をバス道路と一体的に整備する。
駐輪場整備	J R 高架下等市民ニーズに対応した規模の市営駐輪場を整備する。
J R 駅舎改築	2階コンコースに直結する改札口を新設し、歩行者専用道路にアクセスする通路を整備する。他
駅前ビル建設 (仮称: 駅西口ビル)	市民の生活利便性向上に資する各種サービス(ターミナル関連施設含む)を複合的に導入するテナントビルとする。他

5 - 2 . 基本方針の策定

(1) 将来目標

交通バリアフリー基本構想における将来目標は、千歳市新長期総合計画、千歳市高齢者保健福祉計画・千歳市介護保険事業計画（千歳市高齢者いきいきプラン 2000）、千歳市都市計画マスタープラン、JR千歳駅周辺交通環境改善計画を踏まえ、高齢者や障害者そして健常者を含む全ての人々の安全かつ円滑な行動を可能とし、日常生活の利便性向上や積極的に社会活動参加ができる生活環境を創ることを目標とする。

(2) 目標年次

交通バリアフリー基本構想における目標年次は、重点整備地区の主要な特定経路を構成する道路、駅前広場、通路等、及び特定旅客施設、バス車両、信号機等について、原則として2010年までにバリアフリー化を実施するものとする。

(3) バリアフリー化の基本的な考え方

全ての人を対象とした基本構想

- ・ 駅を中心とした旅客施設、公共施設や商業施設は多数の人々が利用することになる。こうした施設はもとよりそれらを連絡する道路等についても、移動の円滑化を十分に図ることが必要である。
- ・ ユニバーサルデザインの思想に基づき、高齢者、身障者や健常者を含めて全ての人々が相手の立場になって考え、双方が納得のいく計画づくりを進めていきながら、重点整備地区を中心に整備を促進し、市内全体に計画の思想を波及していく。
- ・ 移動に関する身体的な機能等については、様々な障害を持つ人々が存在している。フィールドチェックや十分な意見を反映させながら、千歳市におけるバリアフリー化を推進していくには、幅広い人々に配慮した構造を検討していく必要がある。

実現性の高い基本構想

- ・重点整備地区の中心となるＪＲ千歳駅では、駅を中心とした交通結節改善事業が計画されており、本構想の特定事業に位置づけをし、バリアフリー化を積極的に推進する。
- ・又、重点整備地区における特定事業は、集中的かつ重層的な取り組みが重要である。
- ・千歳市を中心とした関係機関が相互に緊密な協議を重ね、構想に係わる一定の役割分担のもとに、道路改築等の各特定事業に合わせてバリアフリー化を推進する。
- ・実現性の高い基本構想とする。

心がかようバリアフリー化

- ・交通バリアフリー化を推進するためには、ハード的な環境整備のみならず精神的なバリアを取り除くことも重要である。
- ・全ての市民が自然に身障者や高齢者、子供達に対し、手助けが出来るような心のバリアフリー化に対しても取り組むことが必要である。

段階的な整備

- ・重点整備地区のみならず、段階的に全市を見据えたバリアフリー化の推進を図る。他駅や周辺施設、又は移動に関わる経路についても同様な思想を反映し、段階的な整備への対応が必要である。
- ・交通事業者、道路管理者、公安委員会、施設管理者等が協力し、段階的な整備を推進する。

ソフト施策の充実

- ・高齢者や身体障害者等の移動性の円滑化を図るため、道路等の構造改善のみならず、ＩＴ技術を活用した情報提供や案内誘導等、ソフト面での取り組みも重要である。